まちづくりの基本目標（案）

2021.07.15 企画課

資料４

１ 基本目標の設定の考え方

○「第２章 札幌市の現在及び将来に関する考察」及び「第３章 都市像」から、まちづくりに共通する**３つの重要概念**（以下）を定め、この概念と札幌市のＳＷＯＴ分析を基に考察を行い、基本目標を導く。

Ⓤユニバーサル（共生）
支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと
（障壁や困難の解消、格差の是正、機会の均等、交流の促進、自然との共生など）

Ⓦウェルネス（健康）
誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること
（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

Ⓢスマート（快適・先端）
先端技術等を活用し、まちの魅力・快適性を高めていること
（利便性の向上、生産性の向上、人材育成、ゼロカーボンなど）

２ 基本目標（案）

○３つの重要概念ⓊⓌⓈとＳＷＯＴ分析を基にした考察から、20の基本目標を導き、これを８分野に分類。重要概念に関わる内容（下線）は、各基本目標に紐づく「目指す姿」として設定する。
※各分野にⓊⓌⓈが必ず含まれる。なお、下線のⓊⓌⓈは代表的なもの１つを掲載しており、別の概念を含む場合もある。

子ども・若者

●人口減少の緩和に向けては、市民の希望出生率1.65に対し、合計特殊出生率が1.12と下回っていることから、社会全体で子どもと子育て家庭を支えていることⓊや、性別を問わず働きながら子育てができる環境が整っていることⓊが重要。

●また、社会全体で虐待やいじめなどの子どもの権利が侵害される事態を防いでいることⓊや、若者の社会的自立を支えていることⓌが重要。

●さらに、子どもは、一人一人が尊重されⓊ、心身ともに健康でⓌ、時代に即した内容・学び方の質の高い教育を受けているⓈことが重要。

■基本目標１
安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまち

■基本目標２
誰一人取り残されずに、子どもが健やかに成長し、若者が希望を持って暮らすまち

■基本目標３
子どもたちが互いを尊重しながら学び合い、健やかに育つまち

経済

■基本目標10
強みを生かした産業が経済をけん引し、誰もがチャレンジできるまち

■基本目標11
多様な主体と高い生産性が経済成長を支えるまち

■基本目標12
雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち

●人口減少の緩和につながるもう一つの方策に、若者の道外流出の抑制と国内外から企業や人材の流入の促進があり、札幌の強みである分野や今後成長が期待される分野の産業が成長しているⓈとともに、新しい技術やアイディアで社会課題の解決に挑戦するスタートアップが活発になっているⓈことが重要。

●また、地域経済を支える中小企業や商店街などが生産年齢人口の減少を克服していることⓈも重要。

●さらに、女性や高齢者を含め希望する誰もが安定して働ける仕事に就いているⓊとともに、価値観やライフスタイルに応じて多様で柔軟な働き方ができる環境が整っていることⓌが重要。

生活・暮らし（新設）

●一方で、高齢化は引き続き進行し、2040年代には高齢者人口が全体の４割になる見込みであるが、人生100年時代の到来とも言われていることから、市民や企業が健康への意識を高く持っていることⓌや、生涯学習・学び直しの機会が充実していることⓌが重要。

●また、高齢者・障がいのある人は必要な支援を受けられるⓊとともに、建築物のバリアフリーⓊや、行政手続きなどにおけるICT活用Ⓢが進んでいることが重要。

■基本目標４
誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

■基本目標５
生活しやすく住みよいまち

※現戦略ビジョンの安全・安心分野から、健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項として独立。生涯活躍の観点を強化

スポーツ・文化

■基本目標13
世界屈指のウインタースポーツシティ

■基本目標14
誰もがスポーツを楽しめるまち

■基本目標15
文化芸術が心の豊かさや創造性を育むまち

※冬季オリパラ招致・開催のポテンシャルという強みを生かす観点から分野名に「スポーツ」を明記

●世界からヒト・モノ・投資・情報を引き付け、共生社会や環境都市の実現、都市のリニューアル等に生かすため、札幌の強みであるウインタースポーツの大規模な国際大会が誘致・開催されていることⓈが重要。

●また、誰もがスポーツ（ウインタースポーツを含む）を楽しめる（する・みる・ささえる）ことⓌや、文化芸術を通じた学びや交流の機会が充実していることⓊが重要。

地域

●まちが成熟期を迎え、個々の価値観が多様化する中、地域コミュニティなどにおいては、年齢や性別、障がいの有無、文化、民族、国籍に対する心のバリアフリーⓊや、これらの違いを超えた交流Ⓤが進んでいることが重要。

●また、一人一人が地域コミュニティを育み、大切にする意識を持ちⓊ、ライフスタイルに合わせてまちづくり活動に参加できるとともにⓌ、担い手の育成が進んでいることⓈが重要。

■基本目標６
互いに認め合い、支え合うまち

■基本目標７
誰もがまちづくり活動に参加できるまち

環境

■基本目標16
世界に冠たる環境都市

■基本目標17
豊かなみどり・生態系と共生する都市

●気候変動等に伴う地球規模での環境保全の動きが加速しているため、「LEED for Cities」での「プラチナ」認証という高い評価を受けた環境面の強みを生かし、脱炭素社会の実現に向け先駆的に取り組んでいることⓈが重要。

●また、うるおいや安らぎを与える森林、公園などを保全・創出していることⓌや、防災・市民交流の場として活用していくことⓊが重要。

安全・安心

●地震・風水害などの自然災害の頻発や新型コロナ感染症の拡大を踏まえ、日頃の備えⓊや情報伝達手段Ⓢが充実し、災害時には、医療Ⓦや要配慮者への支援Ⓤなどが適切に提供されていることが重要。

●また、交通Ⓢや食Ⓦに関し安全が保たれているとともに、デジタル化の進展により懸念される犯罪・トラブルの発生が防止されていることⓈが重要。

■基本目標８
防災・減災体制が整った災害に強いまち

■基本目標９
日常の安全が保たれたまち

※防災・減災などの観点に特化。（健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項は生活・暮らし分野）

都市空間

■基本目標18
コンパクトで人にやさしい快適なまち

■基本目標19
世界を引きつける魅力と活力あふれるまち

■基本目標20
都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

●人口減少・少子高齢化の社会においても、持続可能な都市経営を行うには、主要な交通結節点周辺などに都市機能の集積が進んでいるⓈとともに、市民生活・経済活動を支える持続可能な交通ネットワークが確立されていることⓊが重要。

●また、都市のリニューアル時期の到来や2030年度の北海道新幹線の札幌延伸を契機として、国内外から投資を呼び込むことで、都心等で高次な都市機能の集積が進んでいるⓈとともに、広域的な交通ネットワークが充実していることⓈが重要。

●さらに、インフラや市有建築物については、必要な規模や機能を踏まえた計画的な更新や複合化が進んでいるⓈとともに、道路空間を滞留空間として活用するなどのアセットの利活用が進んでいるⓌことが重要。

ユニバーサル（共生）　ウェルネス（健康）　スマート（快適・先端）